

夏秋ギク型スプレーギクの品種育成

～県オリジナル品種候補 3系統を選抜～

1. はじめに

和歌山県の夏季のスプレーギク生産において現在導入されている品種は、茎葉が軟弱等の欠点があり、産地では栽培に適した有望品種の探索を行っているものの、長年定着する品種は少ない。

そのため、農業試験場では2012年から、形質に優れた夏秋ギク型スプレーギクの育成に取り組んでおり、今般、県オリジナル品種の最終候補となる3系統を選抜したので紹介する。

2. 育種目標

短日処理を開始してから約6～7週間で開花し、形質が総合的に優れ、シングル咲きで、花色が白、桃、黄の夏秋スプレーギクを育成する。

3. 育成経過

1) これまでの育成経過

2012年から交配、個体選抜、系統選抜を繰り返し、昨年までに計16系統を選抜した。

本年は、これら16系統について、場内試験および現地試験を実施し、到花日数、切り花品質等について調査した。そして、これらの調査結果と、県スプレーマム研究会会員による評価をもとに、県オリジナル品種の最終候補となる白色1系統、桃色1系統、黄色1系統の計3系統を選抜した。

表1 選抜系統と慣行品種の切り花特性

花色	系統 ^w	到花日数 ^x (日)	輪数 ^y (輪)	茎径 (mm)	切り花長 (cm)	調整重 ^z (g)
白	選抜系統	44.6 ± 1.0	13.3 ± 1.9	5.6 ± 0.4	115.1 ± 3.7	53.7 ± 8.9
	イレーザ	46.6 ± 1.8	9.3 ± 1.6	5.3 ± 0.7	102.1 ± 2.7	52.3 ± 14.7
桃	選抜系統	45.3 ± 0.8	11.1 ± 2.5	4.9 ± 0.8	96.3 ± 6.9	42.9 ± 13.6
	アリエス	45.6 ± 1.7	12.6 ± 2.3	4.7 ± 0.5	110.5 ± 5.3	37.8 ± 8.6
黄	選抜系統	49.1 ± 2.8	13.8 ± 3.8	4.6 ± 0.8	98.8 ± 5.5	43.9 ± 16.1
	オルカ	44.5 ± 2.0	11.8 ± 2.9	4.4 ± 0.8	83.2 ± 6.4	36.7 ± 12.7

w: ____で示す品種は、和歌山県における慣行品種 対照品種)

x: 短日処理を開始してから、切り花日までに要した日数

y: 着色が認められた花序数

z: 切り花を80cmに調整し、基部から20cmまでの葉を取り除いたときの重さ

2) 選抜した系統の特性

いずれの系統も茎葉が比較的強固であり、短日処理を開始してから約45～50日で開花する(表1)。白色の系統は、慣行品種の‘イレーザ’よりも輪数が多く、茎も太い。桃色の系統は、‘アリエス’よりも輪数はやや少ないが、調整重が大きい。黄色の系統は、‘オルカ’よりも、輪数、調整重が大きく、ボリュームに優れる。

4. 今後のスケジュール

今回選抜した県オリジナル品種最終候補の系統については、産地の意見も踏まえつつ、2017年度に詳細な特性調査と現地試作を行ったうえで、品種登録の出願を行う予定である。

また、これらの系統は交配親にも使用し、さらに優良な形質を備えた品種を開発すべく、今後も育成に取り組んでいく。

(栽培部 濱中大輝)



写真1 県オリジナル品種候補 3系統